

# 福井支部ニュース

2022年度 第4号

日本科学者会議福井支部

連絡先：山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

## 今号の内容

- ◆JSA 福井支部第2回幹事会概要報告 (山根 清志)
- ◆時評 養鶏大手企業ビッグ1, 2に異変(その2) (加藤 武市)
- ◆活動報告 自立援助ホームと子どもシェルターが設置 (森 透)
- ◆随想 古本屋のひとりごと(2) (高木 秀男)

## [2022年度 JSA 福井支部 第2回幹事会の概要報告]

2022年8月8日(月)夕刻、オンライン方式でJSA福井支部の第2回幹事会が開催された。定刻の18時には参加者少数で始められず、約10分遅れで開会挨拶が始まった。事前に案内されていた議題は、開会挨拶の後、①支部例会に関して、②支部結成50周年記念事業について、③『福井の科学者』2022年12月号案、④支部ニュースについて、⑤第24回総合学術研究集会 in 大阪について、⑥支部財政について、⑦JSA北陸3県について、⑧その他、であった。

①の支部例会の件では、第一候補は“ロシアによるウクライナ侵略戦争”のテーマで、小野一会員に話題提供してもらい、あとは参加者を含めた自由な討論という形で、場所は教育センター、対面とオンラインの併用のハイブリッド方式、10月後半(22・23か29・30)でどうかという

ことになった。第二候補は“デジタル化推進と現場教育の問題”のテーマで、小倉久和幹事に話題提供してもらい、参加者を含めて自由に討論することとし、11月の26・27あたりに設定しようということになった。

②支部結成50周年記念事業については、『福井の科学者』の合体板(電子版)をつくとされていた点につき、デジタル化するための手続きや方法を考えるとプロジェクトがかなり大きくなるから50周年記念事業としては厳しいのでは、という強い意見があった。

③『福井の科学者』2022年12月号案に関しては、宮本編集長から、省エネ、再エネで特集を組む旨説明がなされ、そうしたなかで省エネ、再エネがなぜストレートに普及していかないのか到底理解しがたいとの思いが吐露されることとなった。

④支部ニュースについて、では、山本(雅)氏から原発再稼働をめぐる記事、森透氏からは、子どもシェルターに関する記事をそれぞれ送付させてもらう旨、表明があった。

⑤第24回総合学術研究集会 in 大阪については、山本(富)代表幹事からこの件につき一通りの説明がなされた。

⑥支部財政について、では、(1)7月13日、『日本の科学者』8月号と2022年後期(7~12月)分および未納分の会費請求書を一緒に発送した。(2)徴収できなかった退職会員の会費について(全国事務局からの連絡)福井支部の該当者は1名、について確認した。

⑦JSA北陸3県について、では、次のことを報告・確認した。

- (1) 全国幹事会・起草委員と選考WG委員について  
起草委員は、山本富士夫・北陸地区選出幹事とする。
- (2) 役員選考ワーキンググループ委員について  
石川支部事務局長の直江俊一氏を選出した。

なお、北陸地区事務局会議は、8月下旬にオンラインで行う。

⑧その他は、山本(雅)事務局長から、「核燃料サイクルと使用済燃料の課題」と題した、岩井孝JSA原子力問題研究委員会委員長の講演会案内があった。講演会は、8月21日(日)午後2時~、美浜町「はあとびあ」で、オール福井反原発連絡会主催で開催。なお、講演会はYouTube

でも公開の予定。

閉会挨拶の後、第2回幹事会は20時15分前後に終了した。参加幹事は9名であった。

(山根 清志)

## 「時評」 養鶏大手企業ビッグ1, 2に異変 (その2)

### ビッグ2のアキタフーズ 吉川元農水相との癒着有罪判決

ビッグ2企業は、「きよら」で知られる鶏卵業界ナンバー2のアキタフーズ。飼養羽数約750万羽の鶏卵生産大手企業である。同社の元代表、秋田善祺（よしき）氏は18年から20年にかけて農林水産大臣（当時）の吉川貴盛元衆議院議員に贈賄と政治資金規正法違反の罪に問われ、21年10月には東京地裁で、懲役1年8月、執行猶予4年を言い渡された。

グループの秋田善祺元代表（88）＝贈賄罪などで有罪確定＝から現金計500万円を受け取ったとして、収賄罪に問われた元農林水産相、吉川貴盛被告の判決公判が2022年5月26日、東京地裁で開かれた。懲役2年6月、執行猶予4年、追徴金500万円を言い渡された。

アキタフーズは「日本養鶏協会」など業界団体を統括していた。元代表は吉川元農水相に2018年11月から2019年8月に500万円の賄賂を渡し、家畜飼育環境の向上を図る国際基準「アニマルウェルフェア（AW）」の基準案を下げるよう依頼した経緯がある。

このように養鶏企業ビッグ2も、前回のビッグ1と同様、経営能力、モラルを疑う。

2021年に発覚した大手鶏卵生産業者と元農林水産相による贈収賄事件は、鶏卵生産業者が農水相にAWの国際基準への反対意見の取りまとめを働きかけたものともいわれており、世界のAWトレンドに逆行する由々しき問題であったが、国内世論の関心が高まることはなかった。

ここで、AW、有機畜産等を先進的に実践している欧州連合（EU）の新型コロナウイルス感染症から得たEUとしての教訓が、我が国の養鶏産業に参考になる。これからの農業部門は「産直、直売、地産地消」等が重

要になっていくとしている。また、生産者の多様性にも言及し、「多様な生産者すべてが環境に配慮し、安定した収入を得られるような枠組みを整備すること」を強調している。

スイスでは、すでにケージ飼養を廃止しているため、平飼い25%、放し飼い75%である。EU加盟国の鶏卵生産者は、2003年以降、新たなケージシステム鶏舎を建設できなくなり、2012年以降は使用もできなくなりました。そのため、欧州では、平飼、放飼の比率が高く、主な国では、英国、スウェーデン、ドイツ、オランダ、スイス、オーストリアが50%を占めている。一方、アジアでは、未だケージ飼がほとんどである。

松木洋一氏によると、「EUの家畜福祉政策には二つの柱がある。一つは従来の工場的な家畜飼養法の法律的規制ないし禁止であり、他方では共通農業政策（CAP）によるAW畜産へ転換する農業者への補助金政策である。生産段階でのAW飼養技術の開発のため、1998年にイギリスの家畜福祉開発農場（FAI）が、家畜福祉論、法律学、倫理学の研究者や農業者、農学者、獣医師らによって設立されてAW政策が発展してきた経緯がある」と述べている。

ドイツのセレグト社ルドガー・ブレロ社長一本社・ケルンが、「ふ卵中にオス・メスを見分ける技術を開発した」と発表した（2018年11月8日）。メスの種卵の尿膜液には性ホルモンの硫酸エストロンが含まれることを発見した。これによって世界で初めての“オス雛を殺さない卵”としてベルリンで売りだした。ドイツの大手スーパー・レーベグループが、「セレグト」のブランドで1個約199円。日本では特別な訓練を受けた「雌雄鑑定士」が1羽1羽見分けている。世界で殺処分されているオスのヒヨコ60億羽が助かるのでは、日本では年間1億羽のオスのひながその場で殺されている。米国農務省によると、2026年までには米国の3分の2の採卵鶏がケージフリーでなければ予想需要が満たされないとしている。日本では消費者の消費行動と企業のケージフリーコミットメントが重要であろう。

(加藤 武市)

## 【会員の活動報告】

### 福井県に初めて自立援助ホームと子どもシェルターが出来ました！

この8月、福井県内に「自立援助ホーム」と「子どもシェルター」が設立されました。場所は親からの虐待等を防ぐために秘匿事項ですが、ようやく福井にも設立されたことを皆さまと一緒に喜びたいと思います。今年1月に「一般社団法人 ラシーヌ」(フランス語で「根っこ」という意味)を設立し、具体的な準備にあたってきました。そして、ようやく開所までにこぎつけましたこと、皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

ラシーヌの代表理事である端将一郎弁護士が「ニュースレター第1号」(2022年8月5日)に詳しく書かれていますように、設立の契機は2016年の「親と子のリレーションシップほくりく2016福井大会」の分科会から始まりました。それから6年目になってようやく開所に至りました。その間、となりの石川県に「NPO法人シェきらり」が設立されて、自立援助ホームと子どもシェルターを開所しました。このたび、福井にも設立したいという思いに対して、多くの温かいアドバイスをいただきました。全国の子どもたちをめぐる状況は様々であり、貧困や虐待、育児放棄など、厳しい状況があります。福井でも同じような状況が考えられましたが、今まで福井にはそのような施設はありませんでした。

昨年9月に映画「記憶」を上映し、女子少年院の実態を取材したドキュメンタリー映画を多くの方々に観ていただき、感想もたくさんいただきました。その方々に、ラシーヌの「ニュースレター第1号」とリーフレットをお送りすることが出来ました。これから、多くの方々からのご支援やご協力で運営をしていきたいと考えています。

リーフレットには自立援助ホームが大切にしている3つのことが紹介されています。①あたりまえの生活、②主体性の尊重、③退居者支援、の3つです。①は食・住を提供する中で、「おかえり」「ただいま」「ありがとう」などの言葉から始まるあたりまえの日常を大切にします、②は子ど

もたちの成長発達の権利を擁護し、子どもたちの主体性を尊重します、③はラシーヌは、子どもたちが退所した後でも、「困ったときにはいつでも相談に来れる場所」であり続けます、とあります。

(森 透)

著者から 皆様にお願ひです！！

以下の2つの方法でご支援をお願いいたします！！

- 1 現金をご寄付ください。  
福井銀行 田原町支店 普通 6038940  
「一般社団法人ラシーヌ 代表理事 端 将一郎」
- 2 物品をご寄付ください。  
食料品、日用品、消耗品、衣類、電化製品、家具など、子どもたちの生活のために使えるものをお願いします。

#### <連絡先>

〒910-0019 福井市春山1-7-8 春山清水ビル2階  
よつば法律事務所内 「一般社団法人 ラシーヌ事務局」  
TEL0776-28-3331 FAX0776-28-3332  
mail: fukuiracine@gmail.com

#### 支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

- ◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論
- ◆時事評論、意見・見解
- ◆活動報告・経験報告・事例紹介
- ◆行事案内、会員への案内・お知らせ
- ◆その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、何でも支部ニュース担当者までメールでお送り下さい。

yamane@f-edu.u-fukui.ac.jp  
ogura@u-fukui.ac.jp

## 【随想】 古本屋のひとりごと（2）

雑誌『戦旗』は「全日本無産者藝術聯盟」（ナップ Nippon-Artista Proletaria Federacio）の機関誌として1928年5月に創刊された。

『戦旗』はしばしば発禁をくいながらも、創刊号の7000部から1930年には23000部へと部数をのばし、たちまちプロレタリア文学運動の主流雑誌に成長していった。

プロレタリア文学運動が上げ潮に乗ってきた1928年12月、ナップは組織替えのための臨時大会をもった。それまでの個人加盟の単一組織をやめて、五つの専門部をそれぞれ独自の団体に再組織し、日本プロレタリア作家同盟、日本プロレタリア演劇同盟、日本プロレタリア映画同盟、日本プロレタリア美術家同盟、日本プロレタリア音楽家同盟の協議体として「全日本無産者藝術団体協議会」（これも略称はナップ）が誕生した。そしてナップ出版部は戦旗社となり、ナップの出版活動を受け持つことになった。

当時の出版物には警察による検閲が行なわれ、『戦旗』はしばしば発禁処分を受けた。そのため『戦旗』を防衛し発禁になった号も含めて確実に読者の手に渡るように、独自の配布網をつくり販売店のみならず鉄道の労働者などの協力を得て様々な方法や手段が使われた。当時の検閲制度がどんなものであったかは、「日本の発禁王」と呼ばれた梅原北明が主宰した雑誌『文藝市場』（1927年8月号）の表紙・裏表紙に、「発売禁止双六」という形で具体的に描かれた。ちなみに、この雑誌はそのイラストのために発禁処分を受けた。

『戦旗』は発禁処分を受けると、指摘された箇所をすべて伏字にし、改めて改訂版を発行した。そのため『戦旗』（全41冊）は、改訂版を含めると全部で51冊発行された。警察の弾圧が激しくなった終わり頃になると、もう『戦旗』は雑誌の体裁ではなく、わずか4頁のタブロイド紙の体裁でしか発行できなくなり、1931年12月号で終刊となった。

現在『戦旗』は全冊覆刻されているが、原本を全冊揃いで所有している図書館・個人ともに存在しない。1931年5月号が製本中に警察によって

差し押さえられ、かろうじて一冊だけ警官の目を盗んで隠したのが残されたという事情があるため、完全収集は不可能なのである。ただ一冊残されたこの号の表紙には、「これはただ1冊の5月号だから絶対に持ち出しを禁ずる」と、『戦旗』の編集に携わっていた詩人・壺井繁治の文字で書かれている。

私は長年かかって『戦旗』全51冊のうち45冊まで収集した。2008年に「蟹工船」の現代的意味が見直され、「蟹工船」ブームが起きたとき、多喜二の研究者でもある浜林正夫先生に私は「蟹工船」を初出誌の『戦旗』で読んだことを話した。そのとき若い頃からプロレタリア文学雑誌の収集をしており、いまではインターネット古書店を開店しそれらを販売していることを伝えた。そうしたら浜林先生は「それなら白樺文学館・小林多喜二ライブラリーが買い上げてくれると思うから、私から話してあげよう」と言ってくれた。そして話はトントン拍子で進み、目玉商品の『戦旗』の大揃いをはじめ12種類の戦前雑誌をまとめて百万円で納入した。

小林多喜二生誕100年を記念して製作されたドキュメンタリー映画「時代(とき)を撃て・多喜二」には、『戦旗』など多喜二が執筆した雑誌や著書が映っていたが、映画の製作には小林多喜二ライブラリーも協力していたので、私が納入した雑誌が映画で使われたのではないかと思った。稀覯雑誌の大揃いは一度手放すと、まず二度と入手することはできない。しかし文学館に納められたのだから、結果よしとしなければならない。

（つづく）

（高木 秀男）

## ＜＜編集後記＞＞

福井支部ニュースの第4号をお届けします。

安倍元首相の死を切っ掛けに「(旧)統一協会」を巡る様々な問題がやっとなマスコミの表に出てきました。その中で、自民党の「改憲案」は「統一協会」の「教義」に酷似している、という指摘は編集子には新しい知識でした。映画「教育と愛国」で紹介されていた安倍氏の発言「横浜で育鵬社の教科書が採択されたのは、教育委員長を首長任命制にして、教育委員を入れ替えていったから」に衝撃を受けたのを思い出しました。（OG）